

編集後記

7巻2号は予定より遅れて発刊となりました。この原因は原稿の集まりがよくないからです。編集委員が頑張ってもこればかりはどうしょうもありません。投稿された原稿はすべて掲載する方向で検討しますが、その為著者改定を大巾に要求する場合があります。時には編集委員あるいはレフェリー等の意見が一致しない場合があり、最終的には編集委員長に裁量に委ねることがあります。その場合には、編集委員長は非常につらい立場にたたされることとなります。原稿が多数集まり取捨選択が自由に出来るようになれば、ある意味では編集委員の仕事は事務的になりずっと楽になります。

無審査で論文を掲載しては、という意見も多数聞かれます。学術誌としては論外の意見だと思います。「悪貨は良貨を駆逐する」という諺があります。

(名和 橙黄雄)

暑中お見舞い申し上げます。

本誌が会員の皆様の手許にとどく頃は夏の盛りかと思いますが、一昨年のように冷夏にならなければよいと思っております。今年の入梅期は空梅雨の日が多くて、各地で水不足が報道されています。昨年のこの時期は大雨をもたらして、各地に多大の被害をもたらしました。

この所、数年来天候不順が予報されていますが、編集委員一同これに負けず、より充実したものを会員の皆様におとどけ出来るよう努力しています。特に、7巻2号から、口腔病理学講座、鈴木鍾美教授を編集委員にお願いしましたので、会員の皆様にお知らせ申し上げます。

先生の今後のより一層のご活躍を期待します。

(伊藤 忠信)

次号誌（第7巻3号）について

投稿締切 昭和57年9月15日

発行予定日 昭和57年11月15日

本号誌168頁の投稿の手引きに従ってご執筆下さい。所定の原稿用紙は学会事務局(歯学部A棟4階歯学部長室副室)に備えてありますのでお申し出下さい。

岩手医科大学歯学会編集委員会